

# JF75・JF75W 設計・施工標準 JFE 建材 株式会社

## 1 型式・質量および断面性能

JF75 ⇒熊谷工場製造  
JF75W ⇒神戸工場製造

型式	板厚 [mm]	製品質量		断面性能	
		垂れつき (Z12) [kg/m]	垂れつき (Z27) [kg/m]	I [x10 <sup>8</sup> mm <sup>4</sup> /m]	Z [x10 <sup>3</sup> mm <sup>3</sup> /m]
□ JF75-08	0.8	7.95	12.6	120	18.7
		JF75W-08	7.97		
□ JF75-10	1.0	9.88	15.7	150	24.4
		JF75W-10	9.88		
□ JF75-12	1.2	11.8	18.7	180	29.4
		JF75W-12	11.8		
□ JF75-14	1.4	13.7	21.8	206	34.4
		JF75W-14	13.6		
□ JF75-16	1.6	15.7	24.9	232	39.3
		JF75W-16	15.5		

JF75・JF75Wの設計・施工は、(一社)公共建築協会「平成18年版 床型鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説」による。  
JF75詳細番号 [評価 第911-0109003号]

種類記号	付着量記号	最小付着量 (両面) [g/m <sup>2</sup> ]	使用材料
SGCC	□ Z12	120	JIS G 3302「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm <sup>2</sup> 、引張強さ295N/mm <sup>2</sup> 以上
SGHC	□ Z27	275	JIS G 3317「溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm <sup>2</sup> 、引張強さ295N/mm <sup>2</sup> 以上
SZACC SZAHC	□ Y18	180	JIS G 3317「溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm <sup>2</sup> 、引張強さ295N/mm <sup>2</sup> 以上
□ その他 ( )			

(注) 断面性能のIは、断面2次モーメント(全断面有効)、Zは断面係数(有効幅50%)を示します  
Y18及びその他製品については、事前にご相談下さい

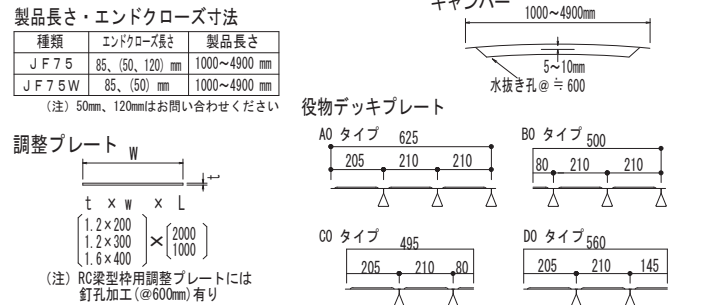
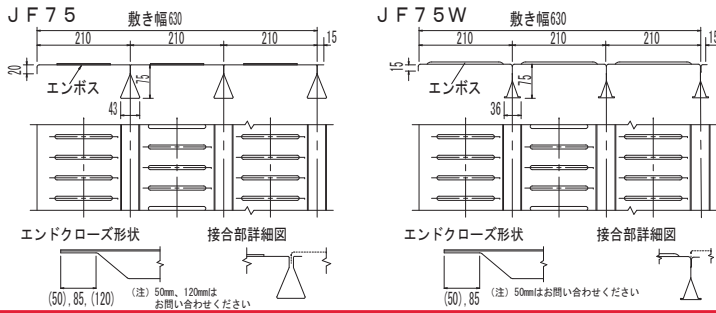
## キーストンプレート

原則として、デッキ長さが1,000mm未満の場合に使用。  
(L=350~1,200mm) ※板厚: 0.8mm

板厚 [mm]	全断面有効断面係数		有効幅考慮断面係数		製品質量	
	I [x10 <sup>8</sup> mm <sup>4</sup> /m]	Z [x10 <sup>3</sup> mm <sup>3</sup> /m]	垂れつき (Z12) [kg/m]	垂れつき (Z27) [kg/m]	I [kg/m]	Z [kg/m]
0.8	12.2	9.8	5.89	6.07		

(注) JF75 (熊谷工場) と JF75W (神戸工場) の使い分けについては、製品は原則、指定搬入先に近い工場にて製造し出荷致します

## 2 製品仕様

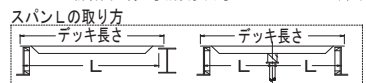


## 3 断面応力・たわみの計算

断面応力・たわみの計算は、一般に単純支持梁モデルを用いて計算する算定式および許容値は、下表とする

項目	算定式
曲げ応力 [S 造]	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{WL^2}{8Z} \times 10^3 \leq f_b$
たわみ (mm)	$\delta = \frac{C5WL^4}{384EI} \times 10^3 \leq \frac{L \times 10^3}{180} + 5$
支柱耐力 (N/m)	$P = WL \leq Pa$

板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2
許容支柱荷重 Pa (幅1mあたり)	9,800	14,700	19,600



設計荷重 W = W1 + W2 + ...

施工時作業荷重

コンクリート (鉄筋コンクリート単重)

**JF75・JF75Wを併記し、レイアウト調整**

施工状況の種類	施工割増係数 (α)	施工条件など
□ I 類	1.0	RC造またはSRC造の場合で、荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合
□ II 類	1.25	I類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚1.0mmまたは板厚1.2mmのフラットデッキを使用する場合
□ III 類	1.5	I類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚0.8mmのフラットデッキを使用する場合

スラブ厚と別許容スパン見下表 [施工時作業荷重1,470N/m<sup>2</sup>、施工割増係数考慮]

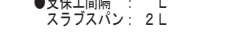
建物の構造	S造、RC・SRC造						RC・SRC造				
	I 類 (施工割増係数: α=1.0)						II 類 (α=1.25)			III 類 (α=1.5)	
スラブ厚 [mm]	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.4mm	1.6mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm			
普通コンクリート	120	2.610	2.870	3.040	3.160	3.270	2.660	2.910	2.130		
	125	2.580	2.850	3.010	3.130	3.250	2.630	2.870	2.100		
	130	2.540	2.830	2.990	3.110	3.220	2.590	2.840	2.080		
	135	2.510	2.810	2.960	3.090	3.200	2.560	2.800	2.050		
	140	2.480	2.790	2.940	3.060	3.170	2.530	2.770	2.030		
	145	2.450	2.770	2.920	3.040	3.150	2.500	2.740	2.000		
	150	2.420	2.750	2.900	3.020	3.130	2.470	2.700	1.980		
	155	2.400	2.730	2.880	3.000	3.110	2.440	2.670	1.960		
	160	2.370	2.700	2.860	2.980	3.080	2.410	2.640	1.930		
	170	2.320	2.640	2.820	2.940	3.040	2.360	2.590	1.890		
24 KN/m <sup>2</sup>	180	2.270	2.590	2.790	2.900	3.010	2.320	2.540	1.850		
	190	2.230	2.540	2.750	2.870	2.970	2.270	2.490	1.820		
	200	2.180	2.490	2.720	2.830	2.940	2.230	2.440	1.780		
	250	2.000	2.290	2.500	2.690	2.790	2.040	2.240	1.640		
	300	1.860	2.120	2.330	2.510	2.660	1.900	2.080	1.520		
	軽量コンクリート	120	2.760	2.980	3.140	3.270	3.390	2.810	3.080	2.260	
		125	2.730	2.950	3.120	3.250	3.360	2.780	3.040	2.230	
		130	2.700	2.930	3.100	3.220	3.340	2.750	3.010	2.200	
		135	2.670	2.910	3.070	3.200	3.310	2.710	2.970	2.180	
		140	2.640	2.890	3.050	3.180	3.290	2.680	2.940	2.150	
145		2.610	2.870	3.030	3.150	3.270	2.650	2.900	2.130		
150		2.580	2.850	3.010	3.130	3.250	2.630	2.870	2.100		
155		2.550	2.830	2.990	3.110	3.220	2.600	2.840	2.080		
160		2.520	2.810	2.970	3.090	3.200	2.570	2.810	2.060		
170		2.470	2.780	2.940	3.060	3.160	2.520	2.760	2.020		
20 KN/m <sup>2</sup>	180	2.420	2.750	2.900	3.020	3.130	2.470	2.700	1.980		
	190	2.380	2.710	2.870	2.980	3.090	2.420	2.650	1.940		
	200	2.340	2.660	2.840	2.950	3.060	2.380	2.610	1.910		
	250	2.150	2.450	2.690	2.810	2.910	2.190	2.400	1.760		
	300	2.000	2.290	2.500	2.690	2.790	2.040	2.240	1.640		

1) □ 部は、たわみで決定する範囲を示す。

中間支保工を設ける場合の許容スパン見下表 [施工時作業荷重1,470N/m<sup>2</sup>]

施工状況の種類	I 類			II 類			III 類		
	α=1.0			α=1.25			α=1.5		
スラブ厚 [mm]	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm			
普通コンクリート	120	4.370	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.270
	130	4.150	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.150
	140	3.950	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	3.950
	150	3.770	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	3.770
	160	3.600	4.900	4.900	4.830	4.900	4.900	4.900	3.600
	170	3.450	4.900	4.900	4.730	4.900	4.900	4.900	3.450
	180	3.310	4.900	4.900	4.640	4.900	4.900	4.900	3.310
	190	3.180	4.750	4.900	4.540	4.900	4.900	4.900	3.180
	200	3.060	4.570	4.900	4.460	4.880	4.900	4.900	3.060
	250	2.570	3.850	4.900	3.850	4.480	2.570		
軽量コンクリート	120	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.520
	130	4.670	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.410
	140	4.450	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.310
	150	4.260	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.210
	160	4.080	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.080
	170	3.920	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	3.920
	180	3.770	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	4.900	3.770
	190	3.630	4.900	4.900	4.850	4.900	4.900	4.900	3.630
	200	3.500	4.900	4.900	4.770	4.900	4.900	4.900	3.500
	250	2.970	4.430	4.900	4.390	4.810	2.970		

- 1) 上表の数値は、中間支保工を設ける場合の JF75・JF75W の許容支柱荷重によって決定する許容スパン 2L を示す
- 2) RC 造または SRC 造において、梁側板型枠で JF75・JF75W を支持する場合、スパンが 3.0m を超えるときは中間支保工を設けることを原則とする
- 3) JF75・JF75W 製品仕様書の最大長さは 4.9m

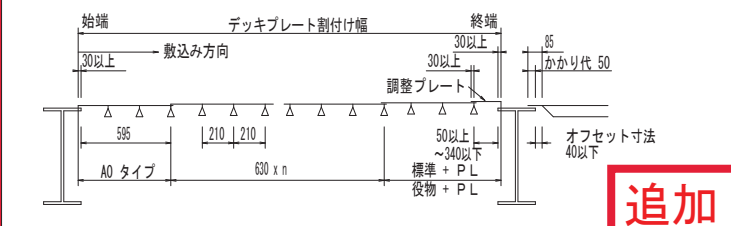


## 4 納まり例

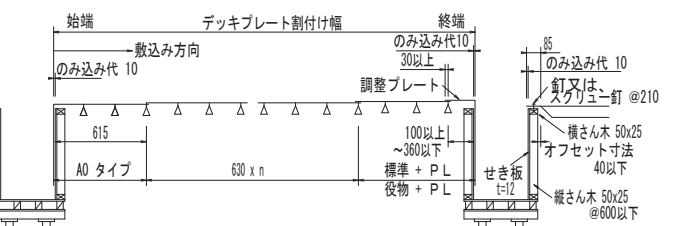
### 4-1 割付け

幅方向の割付けは、標準品 (630幅) をベースに割付ける  
始端・終端調整には役物、調整プレートを使用する

#### (1) 鉄骨造 (S造)

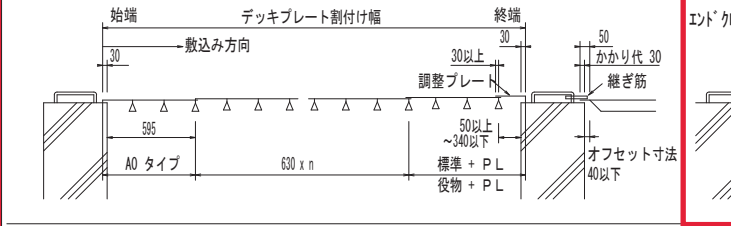


#### (2) 鉄筋コンクリート造 (RC造) 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC造)

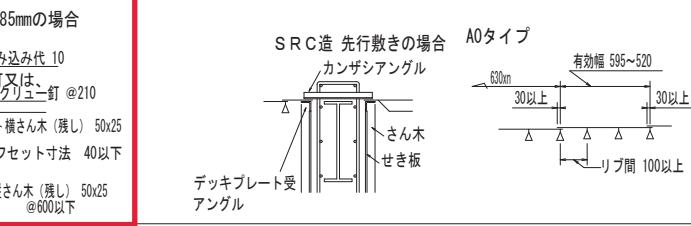


**追加**

#### (3) RC置きスラブ (地中梁)



#### (4) 終端役物の有効幅

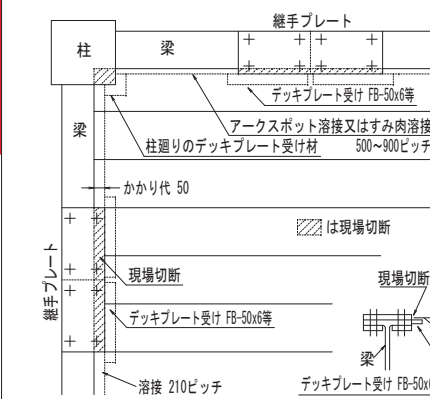


### 4-2 各所の納まり

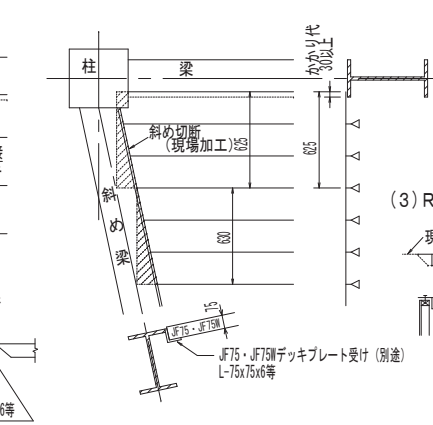
デッキプレート受けは、設計荷重を十分支持可能な部材及び取付方法とする  
デッキプレート受けのサイズは監理者の承認を得て決定すること

#### (1) S造継手プレート部の納まり

※柱コーナーおよび継手プレート部の切断は現場加工

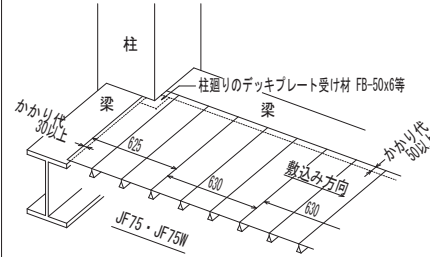


#### (2) S造斜め梁の納まり

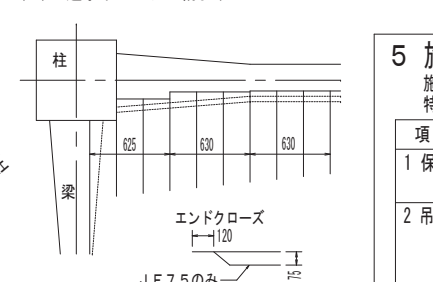


#### (4) S造柱廻りの納まり

※柱コーナー切断は現場加工



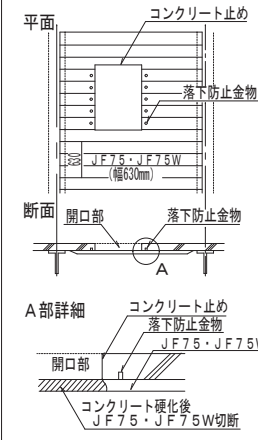
#### (5) S造水平ハンチの納まり



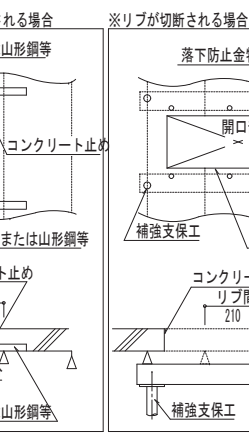
### 4-4 開口部納まり例

配線・配管・空調ダクト等の開口部の施工は、原則として下図のようにあらかじめ型枠で囲い、コンクリート打設硬化後にデッキプレートを切断する。開口部の大きさにより、デッキプレートとコンクリートが剥離する恐れがある場合、切断部周辺に「落下防止金物」を取り付ける

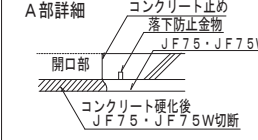
#### A) コンクリート硬化後に開口部切断



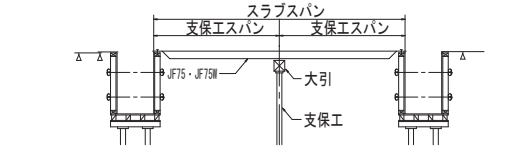
#### B) コンクリート打設前に開口部切断



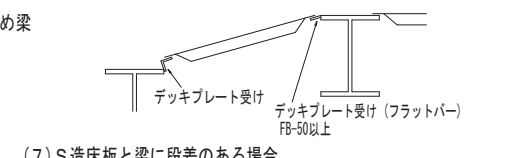
#### A部詳細



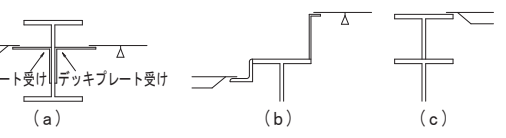
### 4-3 中間支保工設置



#### (6) S造梁の段差 (レベル差) がある場合



#### (7) S造床板と梁に段差のある場合



## 5 施工の要点

施工の要点は、下表のとおりとする  
特殊なケースの場合は、その都度施工法を十分に検討し施工すること

項目	内容
1 保管	(1) 敷込みとの関連を考慮して保管場所を決める (2) 薄板製品であることを十分に認識し変形に注意する
2 吊り込み	(1) 骨組の組立順序との関連を十分検討する (2) 壁、パネル等の取り付け作業との関連を十分検討する (3) クレーンの揚重能力の検討、パレットを用いる等安全対策を検討する (4) 揚重枚数と敷込み順序の関係等検討する
3 敷込み	(1) 始端かかり位置、中間位置 (デッキ5枚位の位置) 終端位置をマーキングする (2) 割付方向は図面に従い、間違いの無いようにする (3) 2枚目以降は最初のデッキプレートに倣うので最初の位置決めを正確に行い、確実に梁に固定する (落下防止等安全対策) (4) かかり寸法は厳守する (5) 敷込み後は速やかに溶接等で固定する
4 作業床	(1) 一時的な作業床で使用することも考えられるが、板厚が0.8~1.0mmのデッキプレートの場合は、接合部分の変形、破壊しやすいので避ける (2) 受圧面積